

研究成果報告書

(国立情報学研究所の民間助成研究成果概要データベース・登録原稿)

研究テーマ (和文) AB		環境と福祉を統合する参加型交通まちづくり			
研究テーマ (欧文) AZ		Transportation and town planning with citizen participation integrating environment and well-being			
研究氏 代表 者	カナ CC	姓) ニッタ	名) ヤスツグ	研究期間 B	2007 ~ 2010 年
	漢字 CB	新田	保次	報告年度 YR	2010 年
	ローマ字 CZ	Nitta	Yasutsugu	研究機関名	大阪大学
研究代表者 CD 所属機関・職名					
<p>概要 EA (600 字~800 字程度にまとめてください。)</p> <p>本研究は、環境と福祉のニーズを反映した地域交通を実現するためには、多様な主体が参加する討議によるビジョンづくりが不可欠との考えのもとに、望ましい討議の条件を討議実験によって検証し、参加型交通まちづくりのモデルをつくることを目的とした。そして、日本でも紹介され始めた討議民主主義論(deliberative democracy)の実践的適用を目指すために、討議における情報提供方法、討議参加者の属性との関連、討議を通じた人々の意見変容プロセス等について検討し、価値観が多様化する時代における政策形成過程のあり方に新たな知見を提供しようとした。本研究の内容は主に以下のように構成される。</p> <p>①本研究の中心的テーマの一つである環境と福祉の統合については、交通まちづくりの視点においては、自動車交通に起因する窒素酸化物、粒子状物質、二酸化炭素などの大気環境要素の改善とモータリゼーションの進展により生じたモビリティ格差の是正の重要性を指摘した。なお、モビリティは人々の福祉向上の重要な要素と位置付けている。</p> <p>②もう一つの中心的テーマである参加システムについては、従来ともすれば住民不在のトップダウン型で行われてきた道路整備の反省の上に立ち、市民参加による道路整備のみならず総合交通体系的な視野に立った交通まちづくりの重要性を指摘するとともに、住民から提訴された道路公害裁判の和解後、道路交通環境改善のまちづくりが行われつつある西淀川区における環境改善と福祉向上の両立によるまちづくりの重要性を指摘した。</p> <p>③続いて、ケーススタディ地域における交通環境や交通行動の実態および課題を既存統計資料や住民アンケート調査をもとに特に次の点を明らかにした。地区の大気環境は改善されつつあるものの、主要幹線道路沿道においては依然汚染濃度が高い。二酸化炭素の削減については未検討である。鉄道を中心とした公共交通の至便地域であるがバスのサービスは良好とはいえない。自転車が主要な交通手段となっている。今後の課題としては、病院等医療・保健・福祉施設への移動の容易化、自転車利用環境の向上の重要性が浮かんできた。</p> <p>④さらに、参加型および討議型交通まちづくりビジョンの策定プロセスについて考察し、住民アンケート調査により参加意向を示した住民を対象に意見交換会を 3 回重ね、まちづくりの方向性を、自転車重視ビジョンと自転車・バス共存ビジョン、そしてこれらのビジョンをつなぐ啓発施策パッケージにまとめた。共通理念は「自動車利用を抑制できる交通まちづくり」とした。そしてこれらのビジョンを一般市民が参加する公開討論会において発表し、専門家および一般参加者から意見を聴取した。同時に、この討議過程を分析し参加者の意見変容過程に関する考察を行った。その結果、専門家提案の選択と討議を繰り返すことで、意見交換会参加者の視野拡大と価値選好の明確化が生じたことが判明した。このことは設計した討議プログラムが参加者の意見の熟成を促したといえる。</p> <p>⑤この交通まちづくりビジョンをもとに、自転車重視型まちづくりに関するいくつかの代替案として、地区内の 3 つの主要幹線道路に自転車道を整備することを考え、どの道路から自転車道を整備するのが望ましいかについて、環境と福祉の統合の視点から、アクセシビリティ、二酸化炭素、運動消費カロリーを評価指標にして交通シミュレーションモデルにより評価を試みた。このシミュレーションモデルは地区内から人々を発生し交通手段と経路選択を行わせるモデルである。その結果、市内を南北に貫く道路に自転車道を整備するのが効果が高いことが分かった。</p>					
キーワード FA	交通まちづくり	住民参加	環境	福祉	

(以下は記入しないでください。)

助成財団コード TA					研究課題番号 AA								
研究機関番号 AC					シート番号								

発表文献（この研究を発表した雑誌・図書について記入してください。）									
雑誌	論文標題 ^{GB}	西淀川区をケーススタディとした自転車走行空間整備のあり方と評価に関する研究							
	著者名 ^{GA}	大西浩貴、新田保次ほか2名	雑誌名 ^{GC}	2010年度土木学会関西支部年次学術講演会					
	ページ ^{GF}	CD-ROM～	発行年 ^{GE}	2	0	1	0	巻号 ^{GD}	
雑誌	論文標題 ^{GB}	討議による市民意見の熟成：西淀川交通まちづくり意見交換会の取り組みから（仮、近刊）							
	著者名 ^{GA}	清水万由子	雑誌名 ^{GC}						
	ページ ^{GF}	交通科学	発行年 ^{GE}	2	0	1	0	巻号 ^{GD}	
雑誌	論文標題 ^{GB}								
	著者名 ^{GA}		雑誌名 ^{GC}						
	ページ ^{GF}	～	発行年 ^{GE}					巻号 ^{GD}	
図書	著者名 ^{HA}	清水万由子（共著、植田和弘編）							
	書名 ^{HC}	『環境ガバナンス叢書第1巻 環境ガバナンス』（近刊）							
	出版者 ^{HB}	ミネルヴァ書房	発行年 ^{HD}	2	0	1	0	総ページ ^{HE}	未定
図書	著者名 ^{HA}								
	書名 ^{HC}								
	出版者 ^{HB}		発行年 ^{HD}					総ページ ^{HE}	

欧文概要 EZ

This study aims to build the model of transportation and town planning with citizen participation, which integrate both aspects of environment and well-being, through estimating the desired deliberative conditions by social experiments. Main contents of this study are as follows;

- 1) to consider about the importance of citizen participation system, in addition to the integration of environment and well-being,
- 2) to clarify the traffic and transportation conditions through present statistical data and the resident questionnaire survey in the case study area, Nishiyodogawa-ku in Osaka city,
- 3) to design the workshop system including resident participation to build the transportation and town vision of the case study area,
- 4) to make the vision shown above and analyze the change process of participant attitudes, and
- 5) to estimate some alternative visions through the simulation model focused on bicycle road networks.